

近玉より集りて和幾千万と云ふ數を亦も義光
より所出馬あり近習少姓を亦月半の内に
より千騎撰出され一同唐城の羽織を着せり連なる
萬と評定あり城持より集り初之と云ふをし翌に先今
日近引有りと傳ふされ俄より所歸城あり来る故
集りて人々悉く不審をふし以て市馬揃數月以前
より市催しを断の如く俄より市歸城有るが故と思ふ
やと覺束あり何れも山形に馳歸りて委細を伺ひ
今日七馬揃市近引の暇何も別業をなさず由中説ふ所
皆私宅へ返りて其日市帳ふけし駿馬數二千七百式

拾金騎をぞ望み相もりて教ふ見くはなる結るる者
永打寄咄を以て度の中馬揃兼て市觸故跡分り見
入る様ありて云ふをばれと申せしより近引の暇中意あき
なりと評定は少なきを亦人中よりは多くは形の思
慮考ひ見たりと云ふ早天下も治りて和言縁語のたゞ云
多かん故におりたり武具の扱ひも疎と云ふを思ふ馬
揃に申あされ武具馬具の古きもね改めらるべき所所
多し以て義光より市催しを断近玉の請ふしをのみに
宣上の駿馬數を亦人たり目付をさし越るゝ云ふ是
よりしなすなりと云ふ見物ゆゑにましくは俄に市近引がさ